

(様式1)

個別施策評価調書

(平成30年度実績)

主管部	市民部	
関係部		

基本施策	1-3 スポーツと文化・芸術を振興する
個別施策	① スポーツの振興
個別施策の方向	すべての市民が、体力や年齢、興味や目的に応じて、スポーツに親しむことができる環境づくりに取り組む。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)										
H27年度	決算	事業費	21,412	人件費	27,698	事業コスト	49,110			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	1,411	一般財源
H28年度	決算	事業費	22,998	人件費	17,620	事業コスト	40,618			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	1,670	一般財源
H29年度	決算	事業費	24,472	人件費	17,040	事業コスト	41,512			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	1,588	一般財源
H30年度	決算	事業費	23,238	人件費	20,997	事業コスト	44,235			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	1,553	一般財源

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	37.4%	37.3%	-0.1%
16) スポーツ・レクリエーション			

平成30年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	B	施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。
提言	<p>つくばマラソンを初めとする主催事業を継続して円滑に実施されたい。</p> <p>さらに、スポーツの振興にかかわる意味で、様々な方法で市民への啓発や周知を実施することで、市民に理解を深めてもらえるよう取り組みを進められたい。</p>	

施策の 取組概要	<p>スポーツ大会の主催事業として、つくばマラソン、つくば健康マラソン、つくば学園ウォークラリー、スポーツフェスティバル等、共催事業は国際ウォーキング、ツール・ド・つくば、茨城オープン市長杯テニス、セキショウ国際女子オープンテニス、リレーカーニバル、スポーツ鬼ごっこ等を開催し、スポーツに対する意識の高揚を図る。</p> <p>つくばマラソンにおいては、筑波大学や研究機関と連携し、「マラソンを科学する」を大会テーマに掲げ、スタートや景観、給水・給食、ランニングフォーム等を様々な角度から考え、「進化してゆくマラソン大会」を目指し取組む。</p>
施策の 成果	<p>各種スポーツ大会の開催により、市民のスポーツ活動を促進するとともに、スポーツを通じた市民交流を図ることができた。また、市外参加者につくばの魅力を感じてもらえる機会を提供できた。</p> <p>つくばマラソンのフルマラソンについては、これまでのデータを解析し、ウェーブスタートを4回から5回とし、定員を15,000人から15,300人に増やしたが、コースの上の混雑もなく、安全かつ円滑に実施することができた。</p> <p>さらに、つくばマラソン、つくば健康マラソンでは、大学や民間企業と連携したランニングクリニックを大会前に開催することで、正しいランニングの知識を学ぶ機会を提供できた。</p>
課題と 改善目標	<p>つくばマラソンにおいては、コース周辺道路、店舗・住宅の立地等の環境変化を勘案してマラソンコースを検討する必要があるとあり、令和2年度のコース公認の更新に向けて、主催4団体及び関係団体と意見交換を行いながら計画的に進める。また、沿道応援の活性化を図るために応援団対等へ協力依頼を行うほか、ボランティアスタッフの確保など、一人でも多くの市民が大会に関わることのできる取組みを進める。</p> <p>さらに、つくば市体育協会やプロスポーツ団体等と連携し、各団体のイベント情報の広報・周知を図ることで、市民のスポーツ活動を促進するとともに交流機会の提供に取り組む。</p>

自己評価（所管部署評価）		
自己評価	B+	施策について成果が確認でき、さらなる向上が期待できると判断される。